

最新情報！

お買い得な特別仕様車

深大寺 梅麻呂

チェックポイントは追加装備と価格とのバランスだ。
自分にとって本当に必要な装備か否かを判断する。

最近では、夏のボーナスで新車を購入しようとするユーザーは減少している。それでも民間企業では約4年ぶりにボーナスが金額的に上昇するという情報も入っている。中には数年前に購入した中古車がそろそろポンコツ状態で修理費が高むため、思いきって新車に買い替えようと考えている人も少なくない。

そこで今回は新車に買い替えする時に少しだけ得をする「特別仕様車」に関する耳寄りな情報を提供する。

昔から自動車メーカーは新車を投入してから約1年を過ぎると、販売台数が下降線を辿る。これを少しでも阻止したいと考え、販売のカンフル剤を打つ。これが「特別仕様車」や「特別限定車」と呼ばれるモデルである。特別と謳われているが決して新しいモデルではない。新車発売から1年後くらいで新規のモデルが

投入されるわけがない。必ずベースとなる車種が存在する。つまり、あるベース車両に特別な装備を追加したカタログに掲載されていない豪華仕様と考えればいい。通常なら販売店でオプション装着しなければならぬ快適装備や便利な装備が追加され、その分価格が上昇する。それが「特別仕様車」であり、「特別限定車」である。

大切なのは追加された快適装備の内容と価格の上昇がどの程度でバランスされているかにある。つまり、追加装備が付いたぶんだけ価格がただ高くなっているようなら何も特別仕様として発売する意味はないし、ユーザー側も決して買い得ではないのだから購入する必要はない。

では、具体的に最新の特別仕様車をピックアップして買い得度をチェックしてみよう。

マツダの「トリビュート」に追加設定されたV6・3リッターエンジンを搭載した「LX」「LX・Gパッケージ」さらに4WDの「GL-X・Lパッケージ」は5月23日に新登場している。前車2モデルは2WDのため価格的には割安だが、いかにもオフロード4WDなスタイルのトリビュートに2WDの組み合わせは考えものだ。しかし、デザイン重視のユーザーには悪くない。大半を舗装されたオンロード走行しかしないユーザーには4WDはある意味で「宝の持ち腐れ」的機能ともいえる。参考までに、LX・Gパッケージの追加装備内容は、アルミホイール、電動格納式カラードドアミラー、ダークティントドガラス、キーレスエントリー、頭部保護機能付きSRSサイドエアバッグ等が付く。4WDのLパッケージでは、ベース車のGL-Xの装備内容に加え、本革シート、運転席ランバーサポート、大型コンソールボックス(アームレスト機能兼用)、カップホ

ルダー&アッシュカップ(センターコンソール部分に装着)、クロームメッキアルミホイール、アルデヒド除去機能付きエアフィルターなどを装備する。

またボディカラーと内装色はピュアホワイト、パッションレッドマイカ、シルキーパールマイカの3色。内装色はベージュのみ。車両価格は2WDのLX・Gパッケージは221万1000円。

4WDのGL-X・Lパッケージは264万5000円。割安感や4WD機能を重視するのか、しないのかで大きく異なる。参考までに、2WDのLXの価格は204万8000円。4WDのGL-Xは254万8000円。ベース車両と比較してどれだけ価格が高くなっているのかをジックリと考えてから最終判断をして欲しい。

見逃せないのは、マツダスピードブランドのロードスターとファミリアだ。走りの楽しさを追求した特別限定車として5月24日から新発売された。具体的な



マツダ『トリビュート』



マツダスピード 『ファミリア』

追加装備や変更点は減衰力4段階調整式ダンパー、専用エキゾーストマニホールド、エンジンマウント&デファレンシャルマウント強化、スポーツサウンドマフラー、カラードフロントサスタワーバー、ボンネットインシュレーター(防音材)、専用エアロパーツ式、専用アルミホイール色(ゴールド)、カーボン調センターパネルなどがロードスターには追加されている。ベース車はRSで搭載エンジンは他グレードと同様の1800ccDOHC。トランスミッションは6速マニュアルのみ。価格は254万8000円。ベース車は232万8000円だから22万円のアップ。これを高く感じる

ユーザーはベース車のRSを購入すればいい。

一方、マツダスピードファミリアはどうか。ベース車はセダンのRS。搭載エンジンは1500ccDOHCだ。このクルマをマツダスピードが手を加えると、こうなる。搭載エンジンは最高出力175馬力の2000ccDOHCになり、5速マニュアルミッションはショートストロークタイプに。マツダスピードオリジナルスポーツマフラー、ステンレス製専用エキゾーストマニホールド、専用スポーツチューンサスペンション、専用前後スタビライザー、205/45R17タイヤ、レーシングハートの17インチ



マツダスピード 『ロードスター』

アルミホイール、前後15インチディスクブレーキ、ストラットタワーバー、エアロパーツ式、専用アルミホイール(ゴールド)、カーボン調センターパネル、ナルディの本革巻き3本スポークステアリング、アルミペダルなどがある。価格は199万8000円。これを絶対に安いと思えば即購入手続きをした方がいい。ロードスターは200台、ファミリアセダンは100台の限定生産である。

スズキのKeiにもカスタマイズ感を演出した個性的な「Kei・DJ」が追加発売された。これは特別仕様ではないが、カタログモデルとして正式に追加設定されている。具体的な変更点は、専用フロントバンパー&ビレットグリル、専用メッキホイールキャップ、クリアタイ

プのリアコンビランプ、サイドアンダースポイラー、専用ボンネットフードガーニッシュ、専用バックドアガーニッシュ、カラードアーチモール、メッキドアハンドル、専用リアエンブレムなどがある。室内関係では、ライトグレー色の専用シート&ドアトリム表皮、シルバー塗装の専用インパネガーニッシュ、専用メーターパネルなどがある。

気になる価格は2WDのDOHCエンジン搭載車は107万3000円。Siターボは4WDで123万円である。どちらがお買い得なのか、やはり4WD機能を重視するか否かで大きく違ってくる。大切なのは自分にとって本当に必要な装備が搭載されているかどうかを冷静に見極める目を養うことであろう。



スズキ 『Kei』(上)
『Kei・DJ』(下)

